

## 奈良・平城京左京三条三坊三坪

1 所在地 奈良市大宮町七丁目

2 調査期間 一九九二年(平4)四月～五月

3 発掘機関 奈良市教育委員会

4 調査担当者 松浦五輪美・原田憲一郎

5 遺跡の種類 都城跡・河道跡

6 遺跡の年代 弥生時代～桃山時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

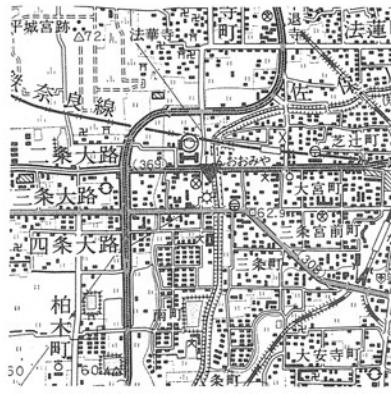
本調査地は、平城京の条坊復原では、左京三条三坊三坪の北西の一画にあたる。検出した遺構には、弥生時代の溝一条、奈良時代の

掘立柱建物六棟、土坑三基、井戸一基、中・近世の土堤、木杭列がある。発掘区の西

半は、中・近世の南北方向の河道により、それ以前の遺構が失われていた。この旧河道は当時の佐保川の流

路と思われる。

柿経を中心とする大量の



木簡は旧河道内と、その氾濫による砂層による出土した。今回の調査地の北西約110mの地点でも、やはり河川の氾濫と思われる砂層から一九七四年に一万点近い柿経・笛塔婆等が出土しており(奈良国立文化財研究所『平城京左京三条三坊』一九七五年)、同じ佐保川の旧河道とみることができる。

### 8 木簡の釈文・内容

(1) 「親近便作是念佛道長遠久受勤苦乃可得」

・「是□來方便之力□一仏乘分別說□如□  
彼」

267×24×0.3 061

(2) 「□入仏道慎勿懷驚懼譬如險惡道廻絕多毒獸」

・「□生死煩惱諸險道故以方便力為息設涅槃」  
264×24×0.3 061

(3) 「常說無上道故号為普明其國土清淨菩薩×

・「我今乃知实是菩薩得授阿耨多羅三藐□」

(4) 「漢道書諸有漏於深禪定皆得自在具×

・「坐處若梵天王坐處若転輪聖王× (159)×23×0.3 061  
(183)×22×0.3 061

(5) 「藐三菩提復有八世界微塵數衆×

・「遍於九方衆寶香爐燒無價香自然× (132)×21×0.3 061

卷之六 佛力別別說

妙法

奇善薩真寶金身相應者十觀佛告阿難

觀力便作是念佛可長遠入受勤苦乃可得  
生无煩惱諸人道故方便力普設是說

八傳道 摩多懷敬智諦深險過急多說

(2)

偏自於供養如是不絕一切諸天皆應天上  
請諸說經後要使凡善報持竹

0

10cm

(9)

(10)

(11)

(12)

(13)

(14)

(15)

(16)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(3)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(4)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(5)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(6)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(7)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(8)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(9)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(10)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(11)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(12)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(13)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(14)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(15)

我今知實是菩薩授阿彌陀菩薩

常說是道故生無間期其國土清淨甘

妙至處若無天王生處者無能生主

菩薩盡諸有漏於深生三皆得自在

(16)

- (6) • 「神通之力若法華經行□」  
• 「道經書□」  
(83) × 23 × 0.3 061
- (7) • 「諸如來起慈□」  
• 「方諸大菩□」  
(102) × 20 × 0.3 061
- (8) • 「我等敬仏故悉忍是諸□…斯所輕言×」  
• 「若入他家不興小女處女寡…□共語亦□」  
(130) × 16 × 0.5 061
- (9) 「音菩薩真美□身□名第十觀仏告阿難□」  
(256) × 23 × 0.3 061
- (10) 「詠誦說此經典後惡世□生善根転少×」  
(170) × 27 × 0.3 061
- (11) 「徧自然供養如是不絕一切諸天皆齊天上」  
(186) × 23 × 0.3 061
- (12) 「阿□□應到此為聽法故余時無數千」  
(154) × 26 × 0.3 061
- (13) 「或有計算金銀寶×」  
(91) × 25 × 0.3 061
- (14) 「余時毗沙門天王護世者白仏言世尊×」  
(134) × 19 × 0.7 061
- (15) • 「諸如是妙法亦滿十方□□□如竹林斯等共一心於□」  
= 億□□
- (16) • 「諸如是妙法諸仏聲歎声及彈指之声周聞十方國地」  
= 皆□
- (17) • 「諸如是妙法世尊欲重宣此義而說偈言」  
• 「諸」  
[ (253) × 23 × 0.3 061 ]  
283 × 24 × 0.3 061
- (18) • 「諸如是妙法心所行通達無□又於諸法究盡明了」  
= 諸  
[ (18) × 25 × 0.3 061 ]  
294 × 25 × 0.3 061
- (19) • 「諸如是妙法名是經第一功德不思議力」  
• 「諸」  
[ (19) × 25 × 0.3 061 ]  
294 × 23 × 0.3 061
- (20) • 「諸如是妙法八十種微妙十八不共法如是等功德而□」  
= 我皆已失」  
[ (20) × 25 × 0.3 061 ]  
294 × 19 × 0.3 061
- (21) • 「諸如是妙法又見□□無數恒沙嚴飾國界」  
• 「諸」  
[ (21) × 21 × 0.3 061 ]  
298 × 21 × 0.3 061

(22) • 「□□是可樂眷□」淨化國土不久得成無

• 「者

(239) × (18) × 0.3 061

(23) • 「須陀羅」垢濁水莫染不受塵

• 「者

(227) × 24 × 0.3 061

(24) • 「須陀羅我等今頓忘□此□退還導師作是念此□

■廿八」

293 × 24 × 0.3 061

(25) • 「須陀羅常說無上道故號為普明其國土清淨苦□

■薩皆勇猛」

286 × 23 × 0.3 061

(26) • 「者」

• 「者

(286) × 23 × 0.3 061

(27) • 「須陀羅如是無量事我今但略說

• 「者

(286) × 23 × 0.3 061

(28) • 「須陀羅入不為一切邪見生死之所壞敗是故善男

• 「者

(295) × 2.1 × 0.3 061

(29) • 「須陀羅得入無上道速成就仏身」

296 × 25 × 0.3 061

(29) • 「須陀羅問其義趣是則為難若人說法令千万億」

• 「者

296 × 23 × 0.3 061

(30) • 「須陀羅由旬汝身第一端正百千万福光明殊妙」

■是」

297 × 22 × 0.3 061

(31) • 「須陀羅汝是以一切樂具施於四百万億阿僧祇

■」

(297) × 23 × 0.3 061

(32) • 「須陀羅不蒙仏所化常□□惡×

■

(135) × 23 × 0.3 061

(33) • ×須陀羅誦受持法華經■者說陀□

■

(109) × 24 × 0.3 061

(34) • ×須陀羅菩薩聞大衆南西北方四維□□如」

■□

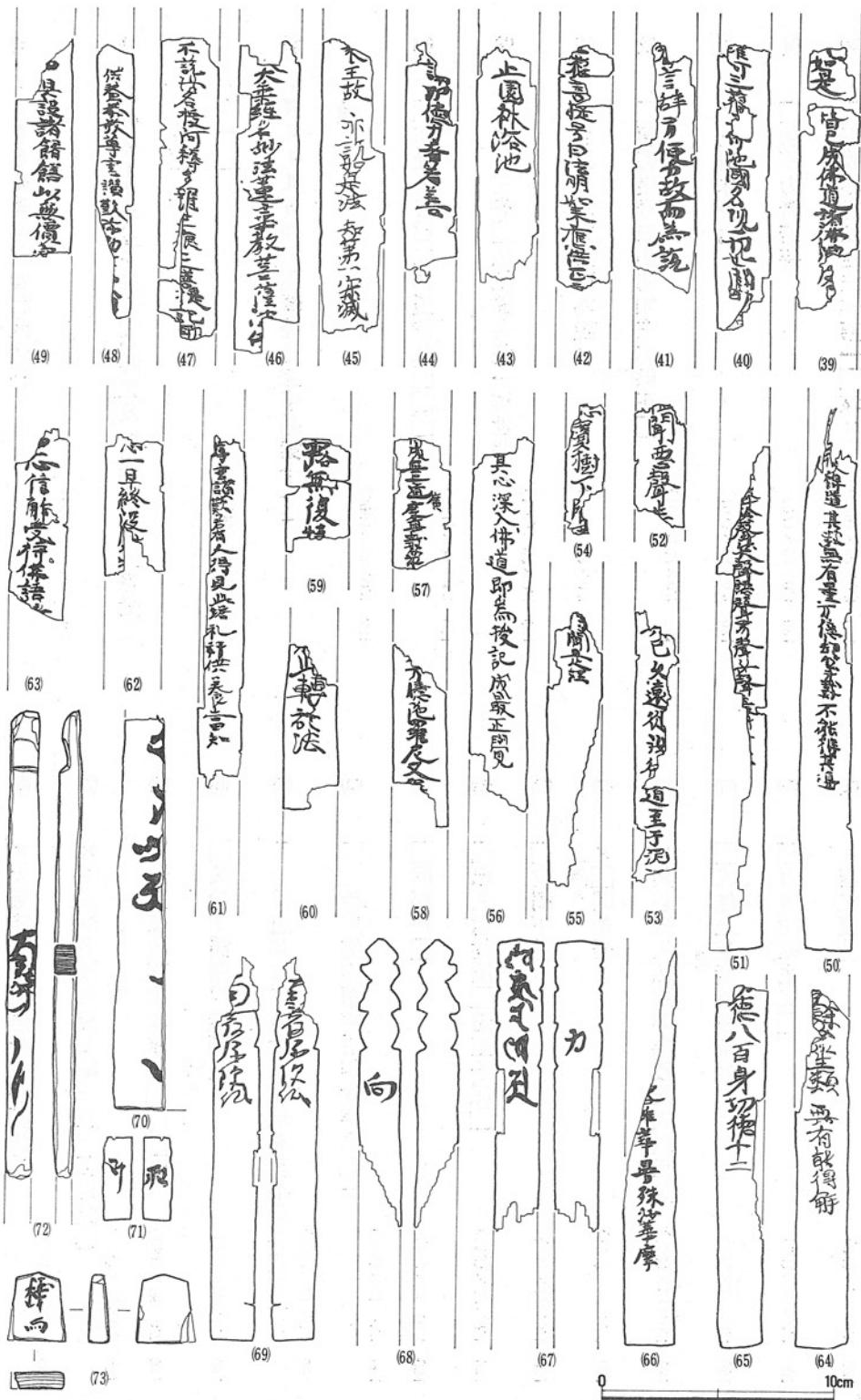
(247) × 21 × 0.3 061

(35) • 「須陀羅於無數劫如恒河沙生軀□

■

(159) × 20 × 0.3 061

- (36) × 大乘經名妙法蓮華教菩薩法□ (143) × 26×0.3 081  
 • □  
 (37) × 不說汝名授阿耨多羅三藐三菩提記□ (131) × 25×0.3 081  
 • 「汝等○我○妙法蓮華經菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受= =其」
- (38) × 供養恭敬尊重讚歎弥□□□□ (120) × 16×0.7 081  
 • 「□」 296×23×0.3 061  
 • 「汝等○我○妙法蓮華經見寶塔品第十一」 (92) × 25×0.3 081
- (39) □具設諸館饌以無惱□□□ (40) □得道其數無有量万億劫算數不能得其辺」 (238) × 21×0.3 081  
 □如是…皆曰成仏道諸仏□□□ (41) □□得道其數無有量万億劫算數不能得其辺」 (296) × 23×0.3 061  
 (114) × 25×0.3 081  
 (42) □聞惡聲□ (43) □鈴声笑声語声男声女声□□ (51) □□鈴声笑声語声男声女声□□ (219) × 21×0.3 081  
 × 淮河三藐□仏陀國名現一切世間劫× (44) □久遠從汝□道至子泥□ (52) □聞惡聲□ (54) × 22×0.3 081  
 (125) × 22×0.3 081  
 (45) □樹下□ (46) □久遠從汝□道至子泥□ (118) × 18×0.4 081  
 × 言辭方便力故而為說× (47) □寶樹下□ (48) □成無上道度無數衆× (56) × 22×0.3 081  
 □藐菩提號曰法明如來應供正□ (49) □廣聞是經 (57) □成無上道度無數衆× (162) × 24×0.3 081  
 × 止園林浴池 (58) □萬億陀羅尼又□ (59) □露無復□ (56) × 25×0.3 081  
 (100) × 25×0.3 081  
 (44) □功德力者若善 (97) × 23×0.3 081  
 □王故亦說如是法知第一□滅× (129) × 28×0.3 081  
 (44) × 27×0.3 081



(60) □此転於法	(72) ×23×0.3 081	(72) 「南無阿弥陀仏」	(205) ×13×10 065
×尊重讚歎若有人得見此塔礼拝供養當知	(154) ×19×0.3 081	(73) 「桂馬」	530×(25)×10 061
(61) □一且終□□	(60) ×25×0.3 081	(1) (66)は柿経、(67) (69)は笠塔婆である。完形の柿経、笠塔婆は少なく、多くは細片であるが、約一万点が出土した。柿経は、檜や杉などの板を薄く剥いだ「こけら」あるいは「経木」と呼ばれる薄板に経文を書写したものである。今回出土した柿経は頭部形態と写経方法により、三種類に分類できる。各々の特徴を左に記す。	
(62) □心信解受持仏語□	(84) ×24×0.3 081	A—1類 頭部形態が山形で、表裏両面に経文を書写する。(1)	
(63) □余衆生類無有能得解」	(154) ×22×0.3 081	A—2類 頭部形態が山形で、片面のみに経文を書写する。(9)	
(64) □德八百身功德千一」	(158) ×21×0.3 081	B 類 頭部形態が五輪塔形で、地輪部を下方にのばし、五輪塔部表面に「 <u>塔婆</u> 」の五大種字と経文、裏面には金剛界大日如来をあらわす梵字「 <u>唵</u> 」あるいは莊嚴点つきの「 <u>菩提</u> 」を記す。(10) (38)	
(65) □□華曼殊沙華摩」	(174) ×23×0.3 081	(8)	
(66) □□華曼殊沙華摩」	(127) ×19×0.3 081		
(67) 「 <u>塔婆</u> 」			
•「力			
「向			
(68) 「 <u>南無阿弥陀仏</u> 」			
•「 <u>南無阿弥陀仏</u> 」			
(69) 「 <u>法華經</u> 」			
(70) 「 <u>觀普賢經</u> 」			
(71) 「 <u>心經</u> 」			
•「 <u>取</u> 」			
37×13×1 011			

(1) (66)は柿経、(67) (69)は笠塔婆である。完形の柿経、笠塔婆は少なく、多くは細片であるが、約一万点が出土した。柿経は、檜や杉などの板を薄く剥いだ「こけら」あるいは「経木」と呼ばれる薄板に経文を書写したものである。今回出土した柿経は頭部形態と写経方法により、三種類に分類できる。各々の特徴を左に記す。

A—1類 頭部形態が山形で、表裏両面に経文を書写する。(1)

A—2類 頭部形態が山形で、片面のみに経文を書写する。(9)

B 類 頭部形態が五輪塔形で、地輪部を下方にのばし、五輪塔部表面に「塔婆」の五大種字と経文、裏面には金剛界大日如来をあらわす梵字「唵」あるいは莊嚴点つきの「菩提」を記す。(10) (38)

書写経典の大半は法華經であるが、そのほかに無量義經、觀普賢經、般若心經、阿彌陀經を書写したものが少数出土している。法華經書写柿経のなかには、(3)と(25)のように、経文の同一行が書写されているものがみられることから、二束以上の柿経があつたことがわかる。断簡の所属を左に記す。

妙法蓮華經序品第一		無量義經德行品第一	(23)
妙法蓮華經方便品第一		無量義經說法品第二	(27) · (58)
妙法蓮華經譬喻品第三		無量義經十功德品第三	(19) · (22) · (34) · (44)
妙法蓮華經信解品第四		仏説觀普賢菩薩行法經	(52)
妙法蓮華經化城喻品第七		出典不明	(9) · (11) · (17) · (39) · (53)
妙法蓮華經五百弟子受記品第八			
妙法蓮華經法師品第十			
妙法蓮華經見寶塔品第十一			
妙法蓮華經勸持品第十三			
妙法蓮華經安樂行品第十四			
妙法蓮華經如來壽量品第十六			
妙法蓮華經分別功德品第十七			
妙法蓮華經隨喜功德品第十八			
妙法蓮華經法師功德品第十九			
妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十			
妙法蓮華經妙音菩薩品第二十一			
妙法蓮華經陀羅尼品第二十六			
妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八			
(6) (14) (30) (16) (37) (51) (4) (5) (28) (7) (8) (29) (61) (3) (1) (12) (18) (13) (20) (15) (21)	柿経の書写は、限定された時間内で完了させなければならなかつたので、間違えて書写されている柿経も多い。今回出土した柿経でも、誤字(1)の裏の末字)、加字(1)の裏の「彼」、(5)の「廣」、抹消(33)が見られる。	(36) · (46) · (41) · (48) · (45) · (57) · (63) ·	
· · · (33) (40) (65) (31) (43) (59) (54) (55) (8) の表 (10) (47) (25) (26) (42) (49) (50) (60)	柿経の書写は、両面写経のものと片面写経のものの両方があり、厚さは薄く、均一化していることなどから、柿経の年代は一五〇一六世紀後半であろう。	(27) · (58) · (19) · (22) · (34) · (44) · (52) · (9) · (11) · (17) · (39) · (53)	

笹塔婆は、柿経と同じように、薄板に名号、題目、種字などを書きしたものである。今回出土した笹塔婆は、頭部を山形にしたものと、五輪塔形のものの二種類に分類できるが、頭部を山形にし、「南無阿弥陀仏」の名号を記したものが大半である。  
(70)は墨書きである。上部と右半分を欠損している。赤外線テレビカメラによる観察では、「南無阿弥陀仏」の六字名号を、梵字で表記していることがわかる。(71)は聞香札もしくは闘茶札である。表面の「ウ」は「客」の略字で、裏面の「取」は人名を略したものであろう。これまでの出土資料と比較すると、その形状から聞香札の可能

性が高い。(2)は墨書木製品である。上部に抉りが入っており、何らかの部材を再利用していると考えられる。(3)は将棋の駒である。文字を彫り込んで墨を点じたものではなく、そのまま墨書している。

裏面に文字は確認できない。

なお、柿経の經典の検索に際しては、元興寺文化財研究所の藤澤典彦氏、千手寺の木下密運氏、木簡の釈読・解釈に際しては、奈良国立文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。

#### 9 関係文献

奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成四年度』(一九九三年)

松浦五輪美・原田憲二郎「柿経の考察—分類と編年について—」

(『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 一九九二』一九九三年)

(原田憲二郎)

## 木 簡 研 究 第九号

卷頭言 田中 稔

### 一九八六年出土の木簡

概要	平城宮・京跡	興福寺旧境内	藤原京跡	和田庵寺
橘寺	曲川遺跡	長岡京跡(1)	長岡京跡(2)	長岡京跡(3)
岡京跡(4)	平安京右京三条二坊八町	平安京右京五条一坊三町	平安京右京五条一坊六町	平安京右京八条二坊二町
安京右京八条二坊十二町	伏見城跡	大坂城跡	安堂遺跡	平
津田トップナ遺跡	萱振A遺跡	祢布ヶ森遺跡	但馬国府推定地	初田館跡
下町遺跡(2)	福田片岡遺跡	清洲城下町遺跡(1)	清洲城	福田館跡
学構内遺跡	居倉遺跡	土橋遺跡	駿府城三の丸跡	長岡京跡
寺遺跡	吉地薬師堂遺跡	胆沢城跡	生石2遺跡	藤原京跡
新青渡遺跡	払田柵跡	根城跡	東京大	和田庵寺
田川河床遺跡	田名遺跡	神照寺坊遺跡	辻遺跡	長岡京跡
大宰府跡	草戸千軒町遺跡	淨琳寺遺跡	中島田遺跡	長岡京跡
一九七七年以前出土の木簡(九)	周防國府跡	吉野ヶ里遺跡		
平城宮跡(第三二次補足調査)				
国語の表記史と森ノ内遺跡木簡				
敦煌凌胡隣址出土冊書の復原				
漆紙文書集成				
正倉院木簡の用途——原秀三郎氏の所説に接して——				
岸俊男会長の思い出				
彙報				
頒価	稻岡耕二	佐藤宗諱・橋本義則	田中 稔	
三八〇〇円	大庭脩	東野治之		
平五〇〇円	平野邦雄			